

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873500650
法人名	医療法人 河辺整形外科
事業所名	グループホーム浜っ子
所在地	愛媛県伊予郡松前町浜858番地
自己評価作成日	22年 6月 10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22 年 7 月 14 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設型のグループホームで老化に伴う様々な慢性疾患や特病など医療面でも適切に対応ができる為、利用者が安心して長期的に暮らしていけるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体の病院(整形外科)が同一敷地内にあり、かかりつけ医との関係や連携も大切にされ、健康管理面で安心感がある。農業や漁業を生業としてきた利用者がほとんどであるため、共通することが多いためか利用者同士も落ち着いた雰囲気である。“心からの笑顔”を基に管理者と職員が気持ちをひとつにして、利用者本位のケアが行われている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム浜っ子

(ユニット名) 浜っ子3F

記入者(管理者)

氏 名 清水 みずほ

評価完了日 22年 6月 10日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念を理解し、実践している。 家族・入居者に対しても、入居の際に話している。	
			(外部評価) 『笑顔』を基本とした理念を基に、職員各々がミーティング時に意見を出しながら、利用者本位の新しい理念を作ろうとしている。すでにいくつかの案が出ている。	全員が自分たちの言葉で利用者を真ん中に据えた理念を作ろうとしている事は評価できる。再度、地域密着型サービスの意義や役割についても話し合い、サービスの充実につながる事を期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 老人会長、区長、介護相談員を通して、地域の事業に参加できるようにしている。また、中学校の職場体験の受け入れ、ボランティアの方々との交流を図っている。	
			(外部評価) 祭りや催し物には参加している。また中学生の職場体験学習の受け入れをして交流親睦を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 役場、区長、民生委員、介護相談員の協力を得て、地域の人々との交流が持てるように努力している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1度、必ず運営推進会議を行い、利用者の状況 報告、事業報告をしている。 意見を取り入れ、サービス向上に努めている。 家族会の発足についてのアドバイスをいただき、検討 している。 (外部評価) 年間の計画を決めて定期的に開催している。メンバー も固定している。巡回相談員が熱心に参加している。 内容については事業所から状況報告や事業報告が多 い。	メンバーに事業所周辺の身近な地域活動のリーダーを 加え、ホームのことをより一層理解してもらえるよう に努めて欲しい。そして率直な意見交換が行えるよう な関係が構築され、運営推進会議が具体的にサービス 向上に活かされることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 介護保険課、包括支援センターに困難事例を相談し、 協力、援助を依頼している。また、カンファレンスに も参加している。 (外部評価) 役場が近所という環境にあり、介護保険課、包括支援 センターの担当者とは情報交換を密に行っている。認 知症キャラバンメイトのキャンペーンへの参加依頼も 受けるなど協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ミーティングで話し合いをし、ホーム外の研修に参 加。後で勉強会を開催している。 やむを得ない場合のみ、家族の了解を得ている。 夜間は、防犯のため、施錠している。 (外部評価) 身体拘束をしないケアが介護ケアの基本であることを 職員全員認識している。ミーティング時には繰り返し 話し合いをしたり、研修会や勉強会に参加して職員の 共有認識を図っている。	気づかぬうちに言葉をさえぎって、気持ちを抑えつ けたり、安全を優先し過ぎて行動を押さえつけたりし ていないか、常に具体的に日々のケアを振り返り点検 することが求められる。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) マニュアルにより研修を行い、事例をもとに話し合いをしている。また、身体の変化に注意し、虐待がないように努力している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会を開催し、資料をもとに学んでいる。制度を利用する入居者への支援をしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、契約書・重要事項説明書を詳しく説明し、納得していただいている。また、不安や疑問点にも答えている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設置している。 サービスに対するアンケートを年1度家族にしている。 運営推進会議への参加を呼びかけている。 (外部評価) アンケートの実施、意見箱の設置、運営推進会議への参加呼びかけなどの働きかけをしているが、家族からの意見はあまりない。	(自己評価) 家族会設置に向けた検討を行っており、意見や要望が活発に出せる交流の場となることを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎日、ミーティングを設けている。 意見ノートを設置して、意見を聞き、反映している。 (外部評価) 毎日のミーティング時に自由に意見を言える雰囲気があり、提案や意見を職員全員で検討し日々のサービスに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年に1度、給与の見直しがあり、努力や実績が反映されるようにしている。 また、勤務日数や労働時間は、融通がきくように配慮している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修に参加できる環境づくりに努めている。 また、資格を積極的に取れるように奨励している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修への参加で、他の施設の方々との交流をしている。 また、役場での会議に参加して、意見交換している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 初回面談時などに関き取りアセスメントしている。 新しい環境に慣れるまで、安心して生活ができるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族との面談時に、不安なことや要望等を詳しく聞き、入所後も、連絡を密に取っている。要望が言いやすい関係を作っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) アセスメントし、職員でカンファレンスを行い、ケアプランに反映している。希望があれば、他のサービスを利用できるように助言している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活の中で、出来ることを一緒に行い、買い物などにも同行し、より良い関係づくりに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時に、日頃の生活の様子を報告、定期的に写真と近況を書いた手紙を郵送している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用していた店など、なじみの場所に行けるよう支援している。友人、知人の来たときには、和やかな雰囲気作りに気をつけている。 (外部評価) 入居時には家族や利用者と面談して共同生活ができるか、日常生活の様子、性格、人柄などを聞いている。入院先から入居される時は、病院に出かけて先生方から様子を聞いている。	自宅を訪問するなど、利用者の生活歴、周囲の人間関係、馴染みの場所など感じ取り、日々の生活につないでいく工夫が求められる。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクリエーションなどを通して、強調することを提案。 一人であることのないように配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 依頼があれば、協力・相談に応じている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の中で頻繁に話しかけ、困っていることや希望を聞くように努めている。意思を伝えられない場合は、職員間で話し合い、検討している。	
			(外部評価) 毎日の生活の中で、話をよく聞き、趣味や特技、好きなことを把握し、利用者の視点にたってその人らしい暮らしができるよう配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 初回面談時にアセスメントしている。 また、入居後にも聞き取り、ケアプランなどに活用している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日常生活を通して観察し、健康状態、できることできないことの把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	(自己評価) ケアプランを年に2度見直している。 担当者会議を開催し、課題を見つけて、ミーティング で話し合い、家族や医師からの助言を取り入れて、ケ アプランを作成している。 (外部評価) 面談で聞いた要望を取り入れて方針を決めている。 サービス担当者会議を開いて状況を把握し、具体的な 内容を検討して介護計画を作成し、家族に確認しても らっている。毎月担当者が介護計画の細目についてモ ニタリングシートを作成し、6か月毎に評価表を作成 し職員全員意見を出し合い見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) 個別に記録し、毎日のミーティング時に情報交換し、 共有している。 介護計画の見直しについてのカンファレンスも行っ ている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々生まれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価) 日々の体調や食事量等で、利用者個々の状態をつか み、対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価) 地域のボランティアや役員の協力の下、趣味や特技が 活かせる環境作りを支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 敷地内に併設された病院への受診、訪問診療。 専門病院への受診ができるように支援している。 また、かかりつけ医への連絡を密にしている。	
			(外部評価) それぞれのかかりつけ医の受診を継続している。受診 時は家族の介助をお願いしている。介護タクシーを利用 して利用者自身で受診している方もいる。日常の様 子、服薬の状況など書面で連絡できるようにしてい る。必要時には直接かかりつけ医と電話で確認してい る。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 些細なことでも相談し、対処方法などを指示しても らっている。適切な診療が受けられるように、協力関 係を作っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 病歴、生活歴などの情報を提供している。 発病時の状況を説明、早期に治療が出来るよう協力し ている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時にターミナルケアを実施していないことを説 明。重度化になった場合の対応など、その都度、家族 と話し合っている。	
			(外部評価) ターミナルケアは実施していないことを入居時に説明 している。利用者の状況の変化に応じて話し合いを重 ねている。	全職員が重度化や終末期について常に話し合いなが ら、自分たちの力量を把握し、共通理解を持つ事がで きるように指針を作る事を期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事故発生時のマニュアルがあり、定期的に研修している。消防署で行う応急手当の研修に、順次参加している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の方に来てもらい、防火訓練を行っている。また、地域の人々に呼びかけ、協力が得られるよう努力している。 (外部評価) 年2回消防署の指導により火災を想定した避難訓練を実施している。避難に際し利用者の状況、建物の構造上の注意点などを確認している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 排泄の声かけ、オムツ交換時の部屋のドアの開閉に気をつけている。気持ちを害する言葉などを使わないよう、職員間で話し合いを持って、共有している。 (外部評価) 利用者の尊厳と権利を守ることが大切である事は職員全員が理解し共有して日々心がけている。具体的に排泄時の声かけ、言葉づかいなどに気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 好きな食べ物や好みの洋服、見たいテレビを選択できる支援をしている。 利用者本位のケアを心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日常生活において、時間にとらわれず、一人ひとりが自分のペースで過ごせるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 洋服や髪型などアドバイスしている。 また、行きつけの理容室や美容室に行けるよう配慮している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 献立を一緒に考えたり、配膳・片付けなどを行っている。 おやつ作りには、全員が参加できるものを用意している。	
			(外部評価) 対面式台所で、向かい合って作業する事ができる。利用者のできることを引き出しながら楽しく準備や片づけを一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一日の食事量は毎食記録し、入浴後の水分補給など、必要な水分量を把握し、供給している。 脱水症状に気をつけている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯ブラシやコップの使用が可能な入居者には声かけしている。また、困難な入居者には、介助して、口腔内の清潔が保てるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 座位が保てる場合には、トイレでの排泄を支援。定期的に声かけ、トイレへの誘導をしている。汚れた衣類の交換を迅速にしている。 (外部評価) 座位が保てる限りトイレでの排泄が基本ととらえて、一人ひとりの排泄パターンをつかみ、声かけと誘導を丁寧に行い自立への支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便をチェック、記録している。食生活や水分補給に気をつけ、自然排便できるように努めているが、便秘になった時は、薬の管理、医師への報告を行い、予防や対応に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望や状況を考慮し対応している。長時間の入浴はさけ、入浴後の水分補給に注意している。 (外部評価) 基本的には入りたい時に入れるように、利用者の気持ちを大切に、声かけをしている。体調に応じてシャワーや特殊浴をうまく使って対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その人の体調を優先し、援助している。なじみの布団や枕が使えるようにし、安心して睡眠が取れるように支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明書には目を通すが、全てを把握できていないので、改善していきたい。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常生活での役割を見つけたり、趣味が活かせるレクリエーションを工夫している。 買い物や散歩に出かけ、気分転換を図っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩や買い物に同行し、安全に外出できるように支援している。季節ごとに、行楽・遠出を計画し、実行している。家族の参加も呼びかけている。	
			(外部評価) 住宅地ではあるが、田や畑も残っており日常の散歩を楽しみながら地域の方に声をかける事ができる。利用者と一緒に週2回は食材を買いに出かけている。家族とのドライブや外食など、共に過ごす時間を大切にしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出時の買い物の支払いなど、自己管理できる人はしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 要望があれば対応している。 代筆など、頼まれれば支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共有の場を清潔に保ち、くつろげる空間作りをしている。 季節の花や、四季がわかる飾り付けをして楽しめるように努めている。	
			(外部評価) 居間は明るい雰囲気と十分な広さがあり、ダイニングコーナー、ソファでゆっくりテレビを見るコーナーなど思い思いにくつろげるよう配慮されている。トイレは3か所ありどこに居ても近いところ可以使用。車椅子使用の利用者にとっては、少し狭いがプライバシーが守れる配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共有スペースで孤立しないよう、利用者同士の共通の話題の提供を行ったり、居室で過ごす時間が持てるように支援している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居時に自宅で使っていた食器、家具など、家庭と変わらない環境を作れるように提案している。	
			(外部評価) ベットや布団等、利用者の好みの生活スタイルを大事にしている。利用者の思いのまま使い慣れた小物入れやテレビなどを持ち込まれている。クローゼットが大きく収納スペースが十分あるため、季節物等もすっきりと片付けることができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 一人ひとりの能力に応じた環境作りを心がけ、障害物のどは排除し、転倒防止に努めている。 生活リハビリを取り入れ、手足の廃用症候群をなくす取り組みをしている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873500650
法人名	医療法人 河辺整形外科
事業所名	グループホーム浜っ子
所在地	愛媛県伊予郡松前町浜858番地
自己評価作成日	22年 6月 10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22 年 7 月 14 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者がくつろげる環境作り
家族や地域の住民との密接な関係を築くように努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体の病院(整形外科)が同一敷地内にあり、かかりつけ医との関係や連携も大切にされ、健康管理面で安心感がある。農業や漁業を生業としてきた利用者がほとんどであるため、共通することが多いためか利用者同士も落ち着いた雰囲気である。“心からの笑顔”を基に管理者と職員が気持ちをひとつにして、利用者本位のケアが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム浜っ子

(ユニット名) 浜っ子2F

記入者(管理者)

氏 名 清水 みずほ

評価完了日 22年 6月 10日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事務所の理念を掲示し、管理者と職員は、毎日その気持ちで取り組んでいます。	
			(外部評価) 『笑顔』を基本とした理念を基に、職員各々がミーティング時に意見を出しながら、利用者本位の新しい理念を作ろうとしている。すでにいくつかの案が出ている。	全員が自分たちの言葉で利用者を真ん中に据えた理念を作ろうとしている事は評価できる。再度、地域密着型サービスの意義や役割についても話し合い、サービスの充実につながる事を期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 日常的には難しいが、定期的にホームに来所していただき、催し物をしたり、地域の催し物にも参加している。	
			(外部評価) 祭りや催し物には参加している。また中学生の職場体験学習の受け入れをして交流親睦を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 現状では、現在地域貢献ができていないので、今後の課題の1つである。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 定期的に運営推進会議を開き、アドバイスもいただくが、施設を理解していただいていない部分があり、適切なアドバイスとは少しかけ離れている。	
			(外部評価) 年間の計画を決めて定期的に開催している。メンバーも固定している。巡回相談員が熱心に参加している。内容については事業所から状況報告や事業報告が多い。	メンバーに事業所周辺の身近な地域活動のリーダーを加え、ホームのことをより一層理解してもらえるように努めて欲しい。そして率直な意見交換が行えるような関係が構築され、運営推進会議が具体的にサービス向上に活かされることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 町役場の方々に協力していただき、日々取り組んでいる。	
			(外部評価) 役場が近所という環境にあり、介護保険課、包括支援センターの担当者とは情報交換を密に行っている。認知症キャラバンメイトのキャンペーンへの参加依頼も受けるなど協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関の施錠もなく、エレベーターも必ず職員が誘導している。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアが介護ケアの基本であることを職員全員認識している。ミーティング時には繰り返し話し合いをしたり、研修会や勉強会に参加して職員の共有認識を図っている。	気づかぬうちに言葉をさえぎって、気持ちを抑えつけたり、安全を優先し過ぎて行動を抑さえつけたりしていないか、常に具体的に日々のケアを振り返り点検することが求められる。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 当ホームでは、虐待についてのパンフレットを職員の目に留まるところに掲示し、所内では、職員全員が防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 当ホームの利用者にも事例が起きているので、皆で研修して、理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者に問題が起きれば、家族に連絡を取り、また来所された時等に、疑問点は十分に説明し、理解・納得を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱は設置しているが、今のところ、運営に関しての意見・要望はない。 今後の課題の1つである。 (外部評価) アンケートの実施、意見箱の設置、運営推進会議への参加呼びかけなどの働きかけをしているが、家族からの意見はあまりない。	家族会設置に向けた検討を行っており、意見や要望が活発に出せる交流の場となることを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティング等において意見を述べ、取り上げた意見において、次回より反映される。 (外部評価) 毎日のミーティング時に自由に意見を言える雰囲気があり、提案や意見を職員全員で検討し日々のサービスに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年に1度、給与の見直しがあり、努力や実績が反映されるようにしている。 また、勤務日数や労働時間は、融通がきくように配慮している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部の研修への参加は積極的に出来ています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修への参加で、他の施設の方々との交流をしている。 また、役場での会議に参加して、意見交換している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 不安なこと、要望等には、その都度安心を図るため解決策を話し合っ、安心できるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 不安や要望には、できる限り納得いただけるよう努力 している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 入所時に、これまでの経緯をもとに、家族からの要望 など話し合っ、どのように支援していくかを見極め て対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 利用者と常に接して生活していく中で、それぞれの個 性を知り、生活している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 定期的に写真と近況を書いた手紙を郵送している。 一部の家族は、利用者をホームに任せきりの家族もある。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 馴染んでいた近所の方等が、いつ訪ねて来ても、暖かく 迎える。 (外部評価) 入居時には家族や利用者と面談して共同生活ができる か、日常生活の様子、性格、人柄などを聞いている。 入院先から入居される時は、病院に出かけて先生方から 様子を聞いている。	自宅を訪問するなど、利用者の生活歴、周囲の人間関係、 馴染みの場所など感じ取り、日々の生活につない でいく工夫が求められる。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 体調が悪いときなど、他の利用者が部屋まで行って励ましたり、手助けして支えあっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所されてからも、電話があったり、退所後の様子も耳には入る。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりの思いや暮らしは尊重して応じている。困難な場合は、職員全員で検討し、意見を出し合っている。	
			(外部評価) 毎日の生活の中で、話をよく聞き、趣味や特技、好きなことを把握し、利用者の視点にたってその人らしい暮らしができるよう配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時に、これまでの生活経過を事前に資料等で把握し、それをもとに、入所後は観察や会話の中で今後のケアの参考にしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活の中で、それぞれの現状を把握している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	(自己評価) 利用者一人ひとりについて、毎日のミーティングで現 状や今後のケアについて話し合いをしている。	
			(外部評価) 面談で聞いた要望を取り入れて方針を決めている。 サービス担当者会議を開いて状況を把握し、具体的 内容を検討して介護計画を作成し、家族に確認して もらっている。毎月担当者が介護計画の細目について モニタリングシートを作成し、6か月毎に評価表を作成 し職員全員意見を出し合い見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) それぞれの介護記録により、体調や出来事を話し合 い、改善していくように努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々にもまれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価) 日々の体調や食事量等で、利用者個々の状態をつか み、対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価) 散歩や買い物や広報による行事等に参加し、町の様子 等、利用者と話したりする。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者それぞれが、かかりつけ医がいるので、いつで も連絡が取れる関係にある。 (外部評価) それぞれのかかりつけ医の受診を継続している。受診 時は家族の介助をお願いしている。介護タクシーを利用 して利用者自身で受診している方もいる。日常の様 子、服薬の状況など書面で連絡できるようにしてい る。必要時には直接かかりつけ医と電話で確認してい る。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 当ホームには常勤の看護師がいないので、異常があれ ば、フロアーリーダーまたは管理者に連絡し、すぐ医 師に連絡をとって受診している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入退院については、家族と医師両方の話を十分理解し 行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族と医師の判断により、それぞれの手助けをしてい る。 (外部評価) ターミナルケアは実施していないことを入居時に説明 している。利用者の状況の変化に応じて話し合いを重 ねている。	全職員が重度化や終末期について常に話し合いなが ら、自分たちの力量を把握し、共通理解を持つ事がで きるように指針を作る事を期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員が交代で研修等に参加したり、先輩職員に教授してもらったりしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地域の消防署により、職員全員が訓練を受けている。 (外部評価) 年2回消防署の指導により火災を想定した避難訓練を実施している。避難に際し利用者の状況、建物の構造上の注意点などを確認している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 基本理念にもかかげ、職員全員が心がけている。 (外部評価) 利用者の尊厳と権利を守ることが大切である事は職員全員が理解し共有して日々心がけている。具体的に排泄時の声かけ、言葉づかいなどに気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で、いろいろな場の動作にも、いつも必ず声かけし、利用者に判断を促している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) それぞれの体調や気分に合わせて、一日の過ごし方に気を配っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 就寝前や起床時、その日の天候や行事等により衣服に気を配っている。 特に清潔なものを心がけている。 散髪をしたり、髭剃りを指摘をつけている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 献立を作り、偏らない食事や楽しみにしてもらえるメニュー等に心配りしながら、利用者の能力に応じた手伝いをしてもらっている。 (外部評価) 対面式台所で、向かい合って作業する事ができる。利用者のできることを引き出しながら楽しく準備や片づけを一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の量を1日3回とおやつは必ず記録に残している。また、それぞれの水筒に毎朝お茶をいれ、健康状態を把握できるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアの実施や入れ歯の洗浄を行ったり、介助したりしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者に定期的にトイレ誘導を行い、支援している。	
			(外部評価) 座位が保てる限りトイレでの排泄が基本ととらえて、一人ひとりの排泄パターンをつかみ、声かけと誘導を丁寧に行い自立への支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) それぞれの排便記録により、便秘等の場合は、自然排便ができるように、食事や水分に気をつける。それでも駄目な場合は、医師の指示をもらう。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者の体調に合わせて、入浴を行っている。入浴できないときは、シャワー浴や清拭等の方法を考えている。	
			(外部評価) 基本的には入りたい時に入れるように、利用者の気持ちを大切に、声かけをしている。体調に応じてシャワーや特殊浴をうまく使って対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の体調や生活習慣を考え、安心できるように支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 医師の指示どおり服薬し、飲み忘れがないように必ず職員が管理し、確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) それぞれが好むレクや日常の手伝い・買い物といった個別だったり、団体でできることだったり、工夫している。 カラオケで全員参加のときもある。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 職員と一緒に外出やドライブ、また家族と一緒に外出等、出来る限り行っている。	
			(外部評価) 住宅地ではあるが、田や畑も残っており日常の散歩を楽しみながら地域の方に声をかける事ができる。利用者と一緒に週2回は食材を買いに出かけている。家族とのドライブや外食など、共に過ごす時間を大切にしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的に、ホームでは金銭の管理はしておらず、管理の可能な利用者には、個々に任せてある。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望すれば本人自身で電話や手紙のやり取りはできる。手紙が来る場合があるが、それは職員が読み聞かせている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 清潔にすることに心がけている。 掃除は毎日、利用者の各部屋も実施している。特にトイレ、台所、浴室は使用の都度掃除している。	
			(外部評価) 居間は明るい雰囲気と十分な広さがあり、ダイニングコーナー、ソファでゆっくりテレビを見るコーナーなど思い思いにくつろげるよう配慮されている。トイレは3か所ありどこに居ても近いところ可以使用。車椅子使用の利用者にとっては、少し狭いがプライバシーが守れる配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングが広く、ソファやテーブルが置いてある。 好きな空間でテレビを見たり、利用者同士の会話等、ほほえましい光景がよく見られる。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入所時、馴染みの家具や小物等を持参していただき、今までの生活に近い環境で過ごしていただくよう配慮している。	
			(外部評価) ベットや布団等、利用者の好みの生活スタイルを大事にしている。利用者の思いのまま使い慣れた小物入れやテレビなどを持ち込まれている。クローゼットが大きく収納スペースが十分あるため、季節物等もすっきりと片付けることができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者個々の安全や、できることに気を配りながら、それぞれの環境を作っている。	